

人獣共通感染症について

～ 目に見えない感染症 ～

京都府山城広域振興局
農林商工部農商工連携・推進課

伝搬経路と動物由来感染症				
伝 搬 形 式		具 体 例		動 物 由 来 感 染 症 の 一 例
直 接 伝 搬		咬まれる		狂犬病、パストレラ症、カプノサイトファーガ・カニモルサス感染症、
		ひっかかる		猫ひっかき病
		触 れ る	糞 便	大腸菌症、サルモネラ症、トキソプラズマ症、回虫症、旋毛虫症、エキノコックス症
			飛沫・塵埃	コリネバクテリウム・ウルセランス感染症、オウム病
			その他	皮膚糸状菌症、ブルセラ病
間接伝搬	ベクター	ダニ類		重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、ツツガムシ病、日本紅斑熱
		蚊		日本脳炎、デング熱、ウエストナイル熱、ジカウイルス感染症
		ノミ		ペスト
		ハエ		腸管出血性大腸菌症
	環 境	水		クリプトスポリジウム症、レプトスピラ症
		土壌		破傷風、炭疽
	動物性食品	肉		腸管出血性大腸菌症、カンピロバクター感染症、E型肝炎、住肉胞子虫症
		鶏卵		サルモネラ症
		乳製品		ブルセラ病、牛型結核、Q熱
		魚介類		ノロウイルス感染症、アニサキス、クドア病

大腸菌症、サルモネラ症

大腸菌症

原因：大腸菌（Escherichia coli）

腸管出血性大腸菌（EHEC：ベロ毒素産出）を含む（O157、O26、O111など）

志賀赤痢菌（Shigella dysenteriae）と同様の毒素産生

腸管（特に大腸）に分布 ⇒ **解体時に注意**

感染経路：経口感染（中には100個位の摂取で発症すると言われるものもある）

症状：軽度下痢、腹痛、水溶性下痢（血便）

大腸炎、脳症、腎臓（HUS：溶血性尿毒症症候群）を発症

サルモネラ症

原因：Salmonella属菌（腸チフス、パラチフスを除く）

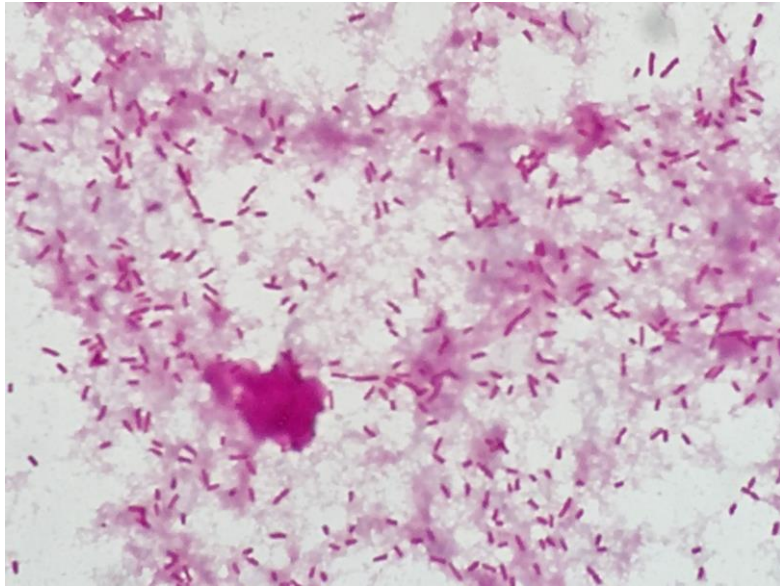
特にS.typhimurium、S.enteritidis、（S.enterica）

腸内細菌の一種 ⇒ **解体時に注意**

感染経路：経口感染

分布：哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、環境

症状：嘔吐、下痢、腹痛、悪寒、発熱、頭痛など

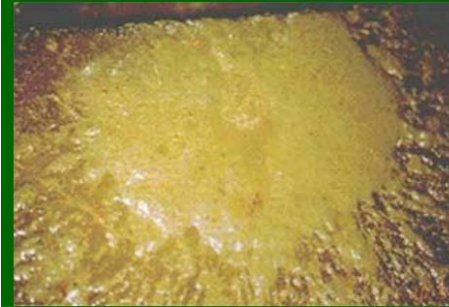


大腸菌(グラム染色)

牛のサルモネラ症

疫学: 保菌牛の糞便、乳汁、腔分泌物中に排泄されたサルモネラの経口感染が主。排泄された本菌は約6ヵ月も生存するので、糞便に汚染された敷わら、飼料、飲水なども感染源となる。

病型: 急性敗血症型(チフス様疾患)では発熱、食欲不振、元気消失を呈した後、敗血症死する。下痢症型では悪臭を伴う下痢を主徴とし、急性例の場合は早期に死に至る。慢性に経過した場合、腸炎に起因する脱水・消瘦などにより発育不良となる。上記の症状に加えて肺炎や流産を引き起こす場合もある。



悪臭を伴う
黄灰白色泥
状の下痢便



鶏大腸菌症



肝臓のチフス結節



かみからサルモネラ菌?

カンピロバクター感染症

原因：Campylobacter jejuni (coli)
数百個程度の摂取で感染成立
生や加熱不十分の鶏肉、レバー、湧き水等より感染

感染経路：経口感染（潜伏期間が1～7日とやや長い）

症状：下痢（水様）、嘔吐、発熱、腹痛、頭痛、悪寒、倦怠感
下痢後数週間で手足の麻痺、顔面神経麻痺、呼吸困難
などを主徴とする「ギランバレー症候群」を発症することがある

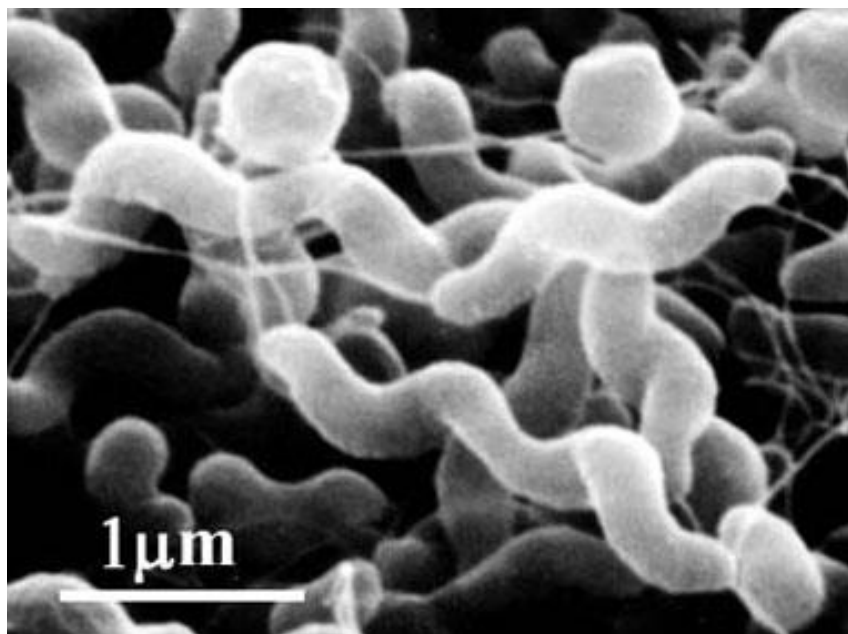
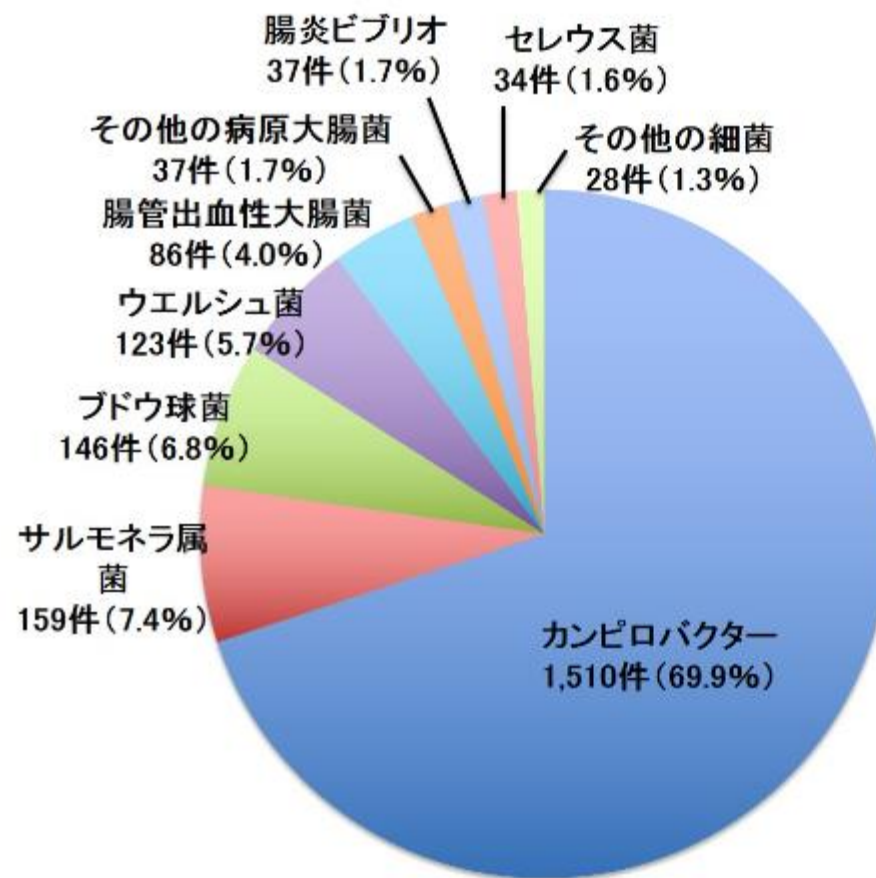


図1. 平成25～29年細菌性食中毒病因物質別発生件数（全国）（厚生労働省食中毒統計より作成）



豚連鎖球菌感染症

原因菌：Streptococcus suis(豚連鎖球菌)

感染経路：接触感染、創傷感染

症状(豚)

敗血症型：発熱、呼吸困難、皮膚の暗赤色化

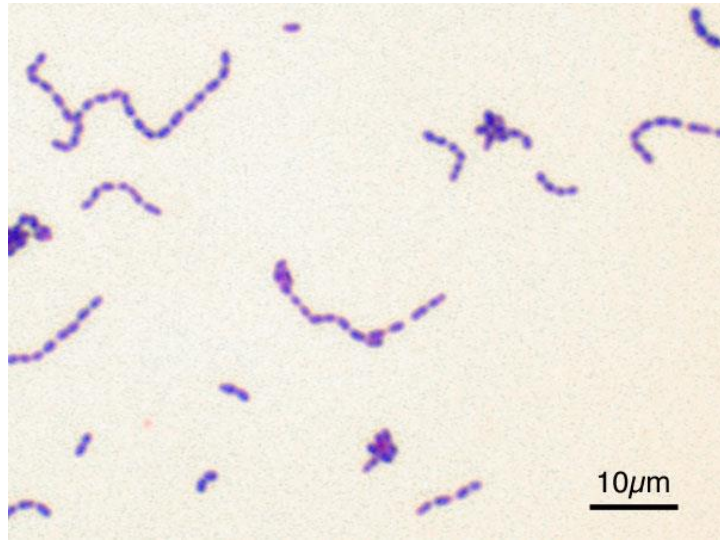
髄膜炎型：発熱、神経症状（遊泳運動、痙攣など）

関節炎型：跛行、運動失調、関節膿瘍

症状(人)

頭痛、関節痛、運動失調、聴覚障害

同族菌：溶血性連鎖球菌（溶連菌：S. pyogenes）



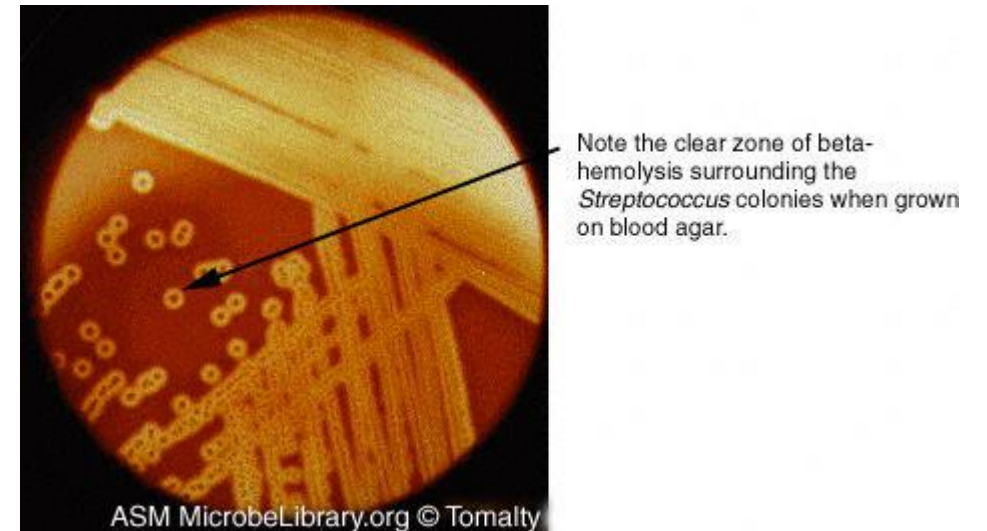
連鎖球菌（グラム染色）



「人食いバクテリア」と恐れられる、劇症型溶血性レンサ球菌感染症を引き起こすことがあるA群溶血性レンサ球菌（国立感染症研究所提供）



子豚の遊泳運動



ブドウ球菌感染症

原因菌：Staphylococcus aureus（黄色ブドウ球菌：最も病原性が強い）

多数の薬剤への耐性を持つものあり(MRSA、VRSA)

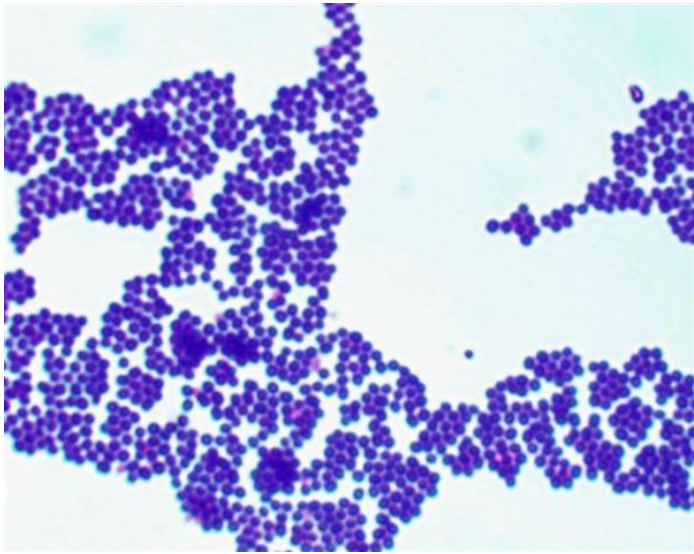
感染経路：経口感染、創傷感染（組織への直接侵入、時に外毒素の産生）

症状(動物)：豚滲出性皮膚炎（スス病）

皮膚に脂性滲出物付着、元気消失、食欲不振、脱水
牛乳房炎

乳房の腫脹、発赤、疼痛、熱発

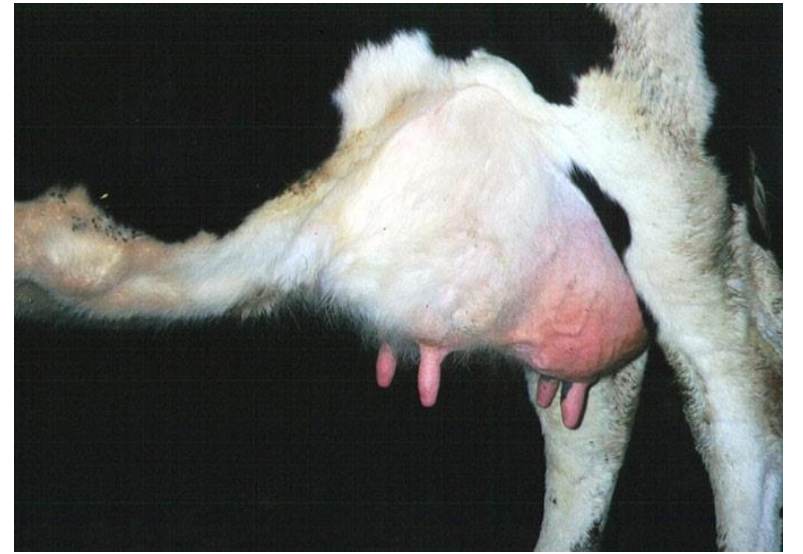
症状(人)：膿痂疹(とびひ)、せつ(毛包炎)、よう(癰腫症)、蜂窩織炎



ブドウ球菌



スス病



牛乳房炎



膿痂疹（とびひ）



せつ



蜂窩織炎

野兔病

原因菌：Francisella tularensis（北米菌は感染力が強い）

感染動物：ヒト、ノウサギ、プレーリードッグ、野生齧歯類他

感染経路：経口感染、経皮感染（ハ、ダニ、蚊、血）

症状：3～5日の潜伏期間→発熱、悪寒、
筋肉痛、関節痛（風邪の症状に似る）
一般的には細菌の侵入箇所に痛みを伴う
皮膚の破れ・ただれが出来る
健康な皮膚からも浸入することあり
吐き気、リンパ節（鼠径部、腋下）の腫脹・
疼痛



芽胞菌

芽胞：極めて耐久性の高い細胞構造を有し（休眠型）、感染すると発芽して、通常の増殖を行う（栄養型）

1 破傷風

原因菌：Clostridium tetani（土壌菌、嫌気性菌）
（同属菌：ボツリヌス菌、ウェルシュ菌、ガス壊疽菌他）
神経毒（テタノスパズミン）、溶血毒（テタリジン）を産生

感染経路：創傷感染、経口感染

症状：創傷部付近の知覚異常、開口障害（咬脛）、痙笑、硬直、強直性痙攣



北里研究所イングラム



瘻 笑



破傷風菌



後 弓 反 射

2 炭疽

原因菌：Bacillus Anthracis（芽胞形成）

（B.subtilis:枯草菌、B.subtilis var. Natto:納豆菌）

感染動物：人を含む哺乳類

感染経路：創傷感染、経口感染、（気道感染）

症 状

【動物】 発熱、眼結膜充血、呼吸・脈拍数増加、発症後24時間以内に
敗血症死（天然孔からの暗赤色タール様出血が特徴）

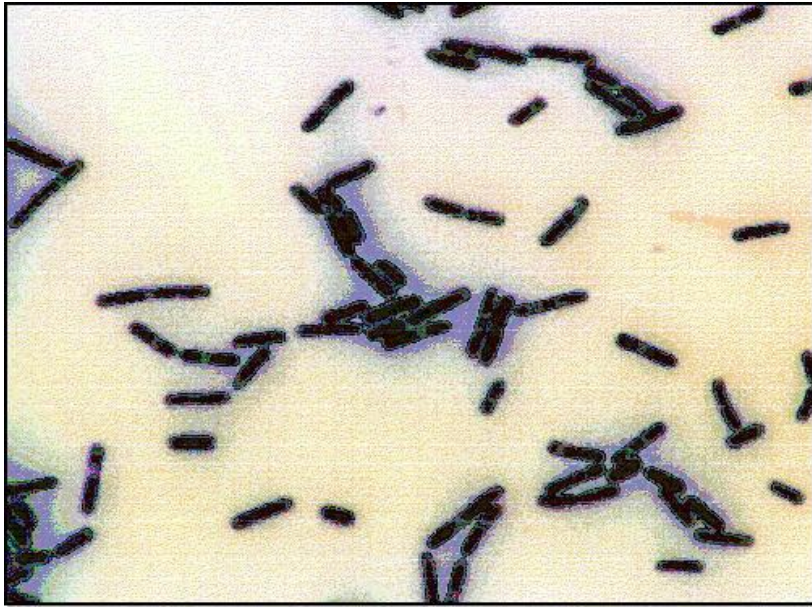
【人】

皮膚炭疽：虫刺され様病変→水疱→黒色痂皮（付属リンパ[°] 節腫脹）

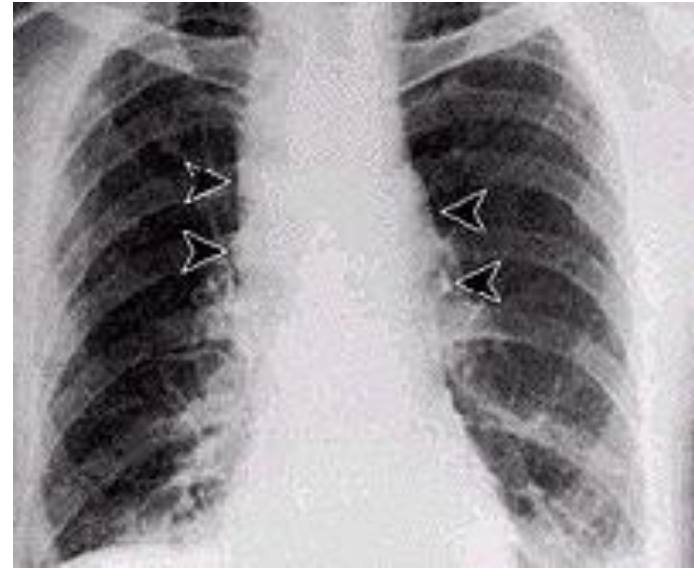
腸炭疽：吐き気、嘔吐、食欲不振、腹痛、下痢

肺炭疽：発熱、頭痛、筋肉痛

最悪の場合、敗血症で死亡



炭疽菌



肺炭疽



炭疽瘍



納豆「昔」

トキソプラズマ病

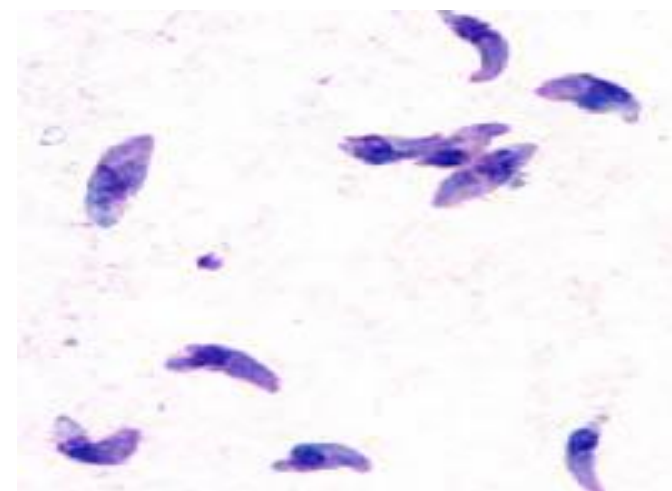
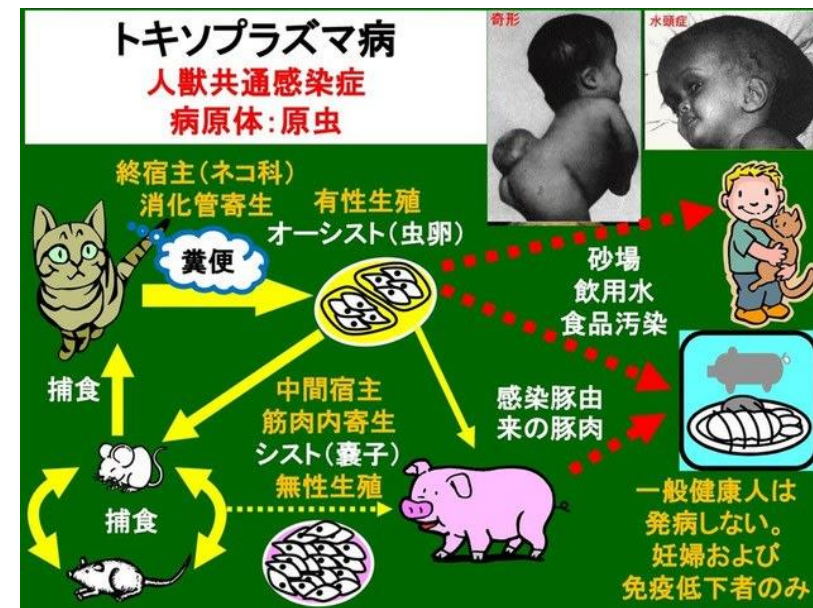
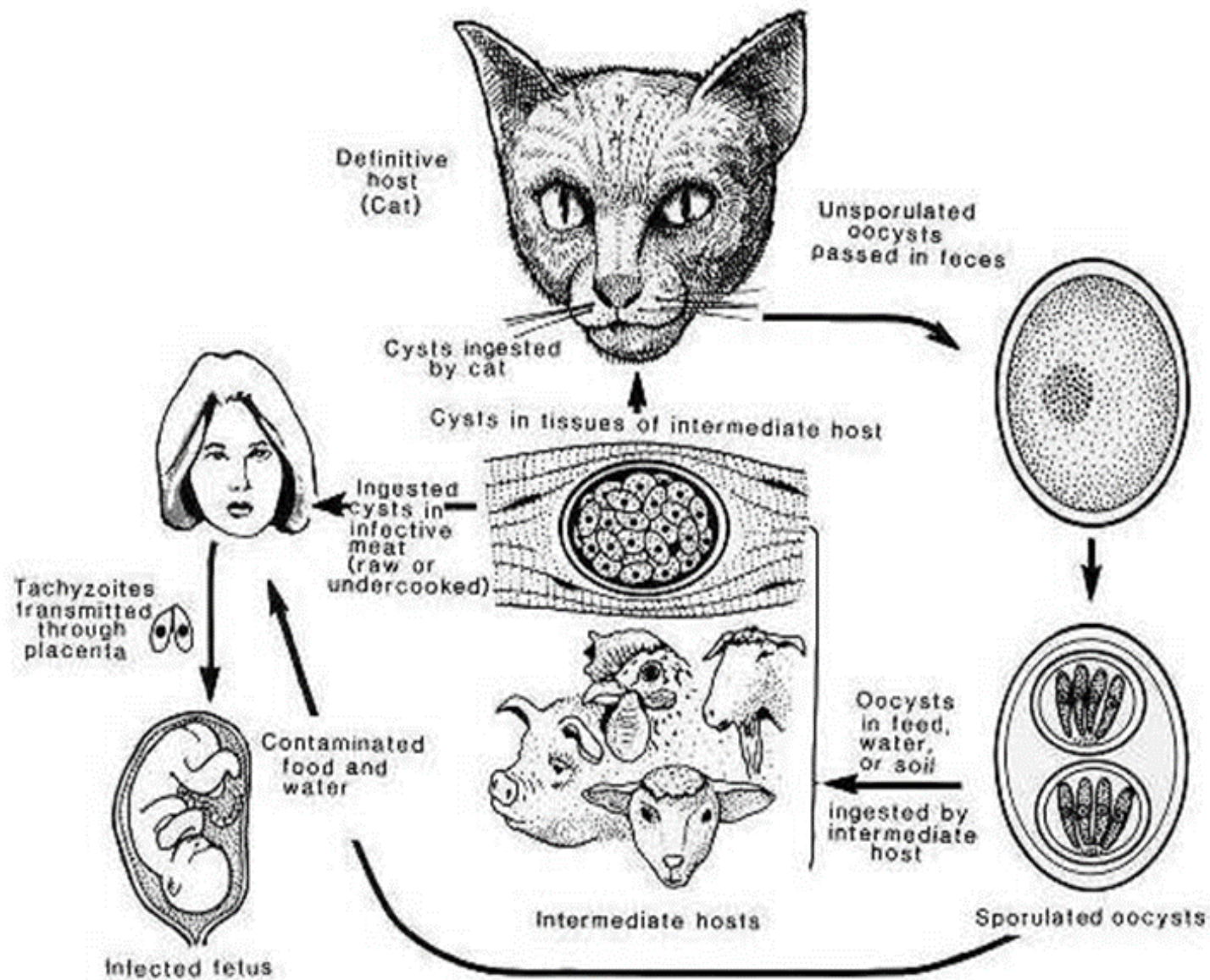
原因：Toxoplasma gondii 原虫

感染動物：昔は豚と猫が危ないと言われていたが、鳥類を含む殆どの温血動物に感染

感染経路：経口感染

症状：通常は発熱もなくリンパ節が腫れる程度

妊娠中の女性が初感染した場合、胎児に異常が出る可能性（水頭症、視力障害、脳内石灰化、精神運動機能障害、奇形）



トキソプラズマ原虫

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

原因：SFTSウイルス（ブニヤウイルス科フルボウイルス属）

感染経路：感染マダニ（フタゲチマダニ、タカゴキラマダニ）に咬まれる
SFTSVに感染したペット等からの接触感染
ヒト－ヒト感染も確認されている（血液、体液）

流行地域：中国、朝鮮半島、日本（九州、四国、中国地方、
関西、北陸）

症状：発熱、頭痛、全身倦怠感、下痢、嘔吐等消化器症状
意識障害、血小板や白血球減少

致死率：10～30%（壮年・高齢者で症状が重くなる傾向）



吸血前



吸血中



吸血後



吸血跡

2. マダニから身を守る服装

野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう！

首にはタオルを巻くか、
ハイネックのシャツを
着用しましょう。

シャツの袖口は
軍手や手袋の中に
入れましょう。

シャツの裾はズボン
の中に入れましょう。

農作業や草刈などでは
ズボンの裾は長靴
の中に入れましょう。

半ズボンやサンダル履き
は不適當です！

ハイキングなどで山林に入る
場合は、ズボンの裾に靴下
を被せましょう。

5. 国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分 含有率	分類	効力持続 時間	注意事項	特徴
ディート	5～10 %	防除用 医薬部外品	1～2時間	6ヶ月未満 児には使用 禁止	・独特の匂い ・べたつき感 ・プラスチック・ 化学繊維・皮革 を腐食すること もある
	12 %	防除用 医薬品	約3時間		
	高濃度製剤 30 %	防除用 医薬品	約6時間	12歳未満は 使用禁止	
イカリジン	5 %	防除用 医薬部外品	～6時間		
	高濃度製剤 15 %	防除用 医薬品	6～8時間		

狂犬病

原因：ラブドウイルス（リッサウイルス）

感染動物：人を含む全ての哺乳類

犬、猫、アライグマ、キツネ、オカミ、スカク、コウモリ、マングース、
ジャッカル、コヨーテからの感染事例あり

感染経路：創傷感染（罹患動物による咬み傷等から唾液に含まれるウイルスが侵入）

清 浄 国：オーストラリア、ニュージーランド、フィジー、日本、ハワイ、グアム、
アイスランド、（ルウェー、イギリス、アイルランド、キプロス）

症状(イヌ)

前 駆 期：性格の変化、行動異常

狂 躁 期：興奮状態、突然の刺激に対する過敏反応

麻 痺 期：全身麻痺による歩行及び嚥下困難、流涎、昏睡状態の後死亡

症状(ヒト)

前 駆 期：発熱、食欲不振、咬傷部の痛み、掻痒感

神経症状期：不安感、恐水及び恐風症、錯乱・興奮、麻痺、幻覚

昏 睡 期：昏睡（呼吸障害によりほぼ100%死亡）

